

# 失業者状況とその解決方法

3年2組25番 朴禹相

1. 最近、私たちはコロナウイルス感染症によって、多くの失業者が生じたことを知っていた。

仕事を失った状態が1年以上続いている「長期失業者」も、働く意欲はあるのに仕事が見つからない「完全失業者」も減少せず、毎年増えているだけである。だが、その失業者達、そして彼らの家族への支援は多いとは言えない。私はこの点に疑問を持ち、なぜ支援が不備か、そして対策としては何があげられるのかによってした。

## 2. 序論

まず初めに、失業者の現状はどの状態なのか。これを知るため、私は総務省統計局の労働力調査を調べた。これによると、2022年7月基準日本の完全失業率は2.4で、約175万人が仕事を求めるのに失業状態である。この改善策として私は、大きく二つの改善策を作った。

## 3. 本論

一つ目は失業支援金制度である。失業支援金制度とは、失業状態の人々に就業するまである程度の生活費を支援する制度である。この支援金で、求職者は生活費に苦しまずに生活することができ、就職まで諦めず努力できる力を持つことができる。

二つ目は就業支援制度である。就業支援制度とは、失業状態の人々のため仕事を探してくれたり、働ける場所を紹介する制度である。この制度で、自分の適性に合う仕事を探すことができる。それだけでなく、いろんな情報をもらって求職活動をすることもでき、なによりも自分一人だけの力で求職するしかないという無力感と恐怖を乗り越えることを手伝う役割も満たすことができる。

この二つの方法はもう前例があって、ドイツで行われた失業者支援を例とする法案が最も適切だと思われる。

## 4. 結論

このように、失業者を労働者に変えるためには多くの努力が必要であり、失業支援金立てなくてはならぬ制度と就職支援制度二つの制度が必須である。ドイツで行われている適切な例があるとはいえ、その制度を日本の事情に合うように改良し、改善していくことがこれから最も重要な課題であろう。

未来の問題としては、国民の税金で支援する大切な支援金なのに、働かずに支援金だけもらって生活する、制度を悪用することを防止できる方策を立てなくてはならないのであろう

## 5. おわりに

韓国では、失業状態の多くの若者が苦しんでいる。私がこの課題に取り組んだ理由は、日本も同じ問題を持っているか知りたかったのである。私は日本は韓国ほど失業問題が深刻ではないことを知ったが、日本の通計には多くの失業者が故意的に抜かれていることを知った。この課題の取り組みながら知ったことは、誰かが見せることはそのまま信じなく、疑問を持つ態度が大切だと知った。

## 6. 参考文献・出典

総務省統計局の労働力調査